

競技注意事項

1. 規則

競技は2020年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則及び本大会要項、申し合わせ事項による。
なお、2020年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則第162条5の適用はしない。

2. 練習

- ① 練習は第2陸上競技場とし、安全面に十分注意して行うこと。第2競技場の使用は選手のみ。
- ② 会場への投擲物持ち込みは禁止とし、練習は現地集合後に本競技場に入場してから行う。
- ③ フィールド競技の練習は、競技開始前に審判の指示により競技場内で行う。
- ④ 器具を使用後は、手洗いをすること。

3. 競技場とシューズ・スパイクの使用

本競技場は全天候型である。シューズ(スパイク・ランニングシューズ含む)の厚さについて走高跳は靴底(ソール)全体20mm(かかと含む)、走幅跳は20mm(ただし前部が踵部より厚くなつてはならない)トラック種目で800m未満の種目は20mm、800m以上の種目は25mmとする。使用できるスパイクのピンの長さは、走高跳12mm以下、その他は9mm以下とし、その数は11本以内とする。また、先端近くで、少なくとも長さの半分は4mm四方の定規に適合するものでなければならない。

4. 招集

- ① 選手または代理人は競技開始の120分前～60分前までにJAAF健康管理チェックシートと大会出場承諾書をTICに提出する。(押印欄に押印のないものは受け付けないものとする)
- ② TICで招集を行う。(出場者の名前に○付けを行う)
- ③ 招集に遅れたものは棄権とみなし出場を許さない。
- ④ トラック選手は、競技時間の15分前、走高跳、走幅跳の選手は競技時間の30分前、砲丸投の選手及び棒高跳びの選手は競技開始1時間前(集合完了時刻)までに下記の場所に集合する。荷物は各自で管理すること。

◇1000m・1000mH・1100mH・400mR4走	第4ゲート前
◇2000m・3000m・400mR3走	第3ゲート前
◇1500m・400mR2走	第2ゲート前
◇400m・800m・400mR1走	第1ゲート前
◇走高跳	Aゾーン外側芝生スタンド前
◇棒高跳	バックスタンド聖火台下
◇走幅跳	メインスタンド下雨天練習場前
◇砲丸投	Bゾーン外側芝生スタンド前
- ⑤ トラック種目の競技者は、出発係から腰ナンバーカードを受け取り、右尻部につけること。(リレー競技は第4走者のみ)
- ⑥ 混成競技について
(イ) 1種目めの招集は招集所(TIC)で点呼を受ける。
(ロ) 2種目め以降の招集は、競技場所に集合すること。
※フィールド種目は競技開始30分前、トラック種目は15分前までに、競技場所に集合すること。

5. 入退場

- ① 入場についてはマーシャルの指示・誘導に従う。
- ② トラック競技は、レース終了後腰ナンバーカードを係に返却し、第1ゲート付近臨時手洗い場で手洗いを済ませ、スタート付近に戻り荷物をもってベンチへ戻ること。
- ③ フィールド競技は、競技終了後、荷物を持って臨時手洗い場もしくは雨天練習場で手洗いをしベンチに戻ること。

6. アスリートビブス

- ① アスリートビブスは千葉県小中学校体育連盟陸上競技専門部指定のものを使用する。
- ② アスリートビブスは胸(腹ではない)と背にしわにならないように四隅をしっかりとつけ、切ったり曲げたりしてはならない。但し、跳躍種目は1枚を胸または背のどちらかにつけるだけでよい。

7. 走路順

トラック競技の予選の組、走路順、フィールド競技の試技順は主催者が抽選しプログラムに数字で示し、決勝の組・走路順は本部で抽選し、速報サイトにて掲載する。

8. 棒高跳支柱移動申告について

各競技者は、競技開始15分前までに当該審判に自分の希望する支柱の位置を申告すること。もしも競技者がその位置を変更したいときは直ちに当該審判員に申告すること。

9. 3000mのスタート方法について

3000mにおいて蜜を避けるためグループスタートを採用する。その際、各組のおよそ3分の2までが内側スタート、残りが外側スタートとする。なお、スタート10m以内には内側外側を分ける縁石は置かない。〔第162条⑩〕

10. オープンレーンについて

男女800m競走はブレイクラインの交差する直前の各レーンに黄色の角柱(もしくは代用縁石)を置くこととする。〔第163条⑤〕

11. リレー競技について(リレーオーダー用紙はTICに準備)

- ① リレー競技に出場するチームはリレーオーダー用紙に必要事項を記入し、集合完了時刻の1時間前までにTICに提出すること。
- ② リレー競技においては、チームの出場者は同一ユニフォームを着用することが望ましい。
- ③ リレーのマーカーの使用は1カ所とする。〔第170条⑩を適用〕

12. 走高跳・棒高跳のバーの上げ方

- ① 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は次の通りとする。

	練習	1	2	3	4	5	
共通 男子走高跳	1m65	1m70	1m75	1m78	1m81	1m84	以降3cmずつ
共通 女子走高跳	1m40	1m45	1m48	1m51	1m48	1m51	
共通 男子 棒高跳	3m60・80・4m00	3m70	3m80	3m90	4m00	4m10	以降10cmずつ
男子 四種走高跳	1m35・50	1m40	1m45	1m50	1m53	1m56	以降3cmずつ
女子 四種走高跳	1m20・30	1m24	1m27	1m30	1m33	1m36	

- ② 第1位に関わる競技者が同成績の場合は、第1位決定のためのバーの上げ下げの範囲は走高跳では2cm、棒高跳では5cmとする。〔第181条⑧〕

13. 番組編成

100mから800mまでの決勝の番組編成は、上位1～4位の4名を中央の3～6レーンに、5、6位が7、8レーン、下位2名を1、2レーンにアトランダムに割り当てて決定する。

14. 計時・競技の抽選

- ① 競走競技はすべてのレースにおいて写真判定を採用する。
- ② トラック競技においてプラス進出者を決める場合、その最下位で同タイム者が出たときは下記の方法で競技を行う。
 - ア、400m以下の競走競技、障害走、リレーにおいては、1000分の1秒以上の比較をし着差の判定をする。それでも判定できない場合は、競技者又は代理人によって抽選をして決定する。
 - イ、800mにおいては、アと同様に比較し、それでも判定できない場合は、次のラウンドに進める。（レーン内に2名の競技者が走る）

15. 不正スタートについて

不正スタートした競技者はすべて失格とする。ただし、混成競技においては、各レースでの不正スタートは1回のみとし、その後不正スタートした競技者は、全て失格とする。2020年度公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則第162条5の適用はしない。

16. フィールド競技について

- ① 走幅跳、砲丸投は3回の試技とする。記録上位8名がトップ8へ進出し、さらに3回の試技を認める。
- ② 棒高跳・砲丸投で使用する滑り止めは、各自で準備する。滑り止めを他人と共有はしない。

17. 用 器 具

- ① 棒高跳のポール以外は競技場備え付けのものを使用する。
- ② 棒高跳のポールは本部の公式計測員の検査を受けてから使用する。

18. 抗 議

発表された結果に対する抗議は、アナウンスの正式発表後（全てのラウンドにおいて15分以内）に各顧問がTICを通じて審判長に対して口頭で行い、控室で待機する。さらに、この裁定に不満の場合は預託金10,000円を添えて、担当総務員（ジュリ）に文書で申し出る。

19. 表 彰

表彰は行わない。入賞者はアナウンスの結果やWEBの大会速報を見てTICにメダル、賞状を取りに来る。また、記録証についても同様とする。

20. そ の 他

- ① 記録の発表は、アナウンス及びWEBの大会速報のみとする。記録の掲示はしない。
- ② 各自の持ち物については自分自身で責任をもって管理し、盗難に注意すること。
- ③ ゴミについては必ず持ち帰ること。競技場、駅、バス停などに絶対に捨てないこと。
- ④ メインスタンド及び芝生スタンドの利用は禁止とする。選手の控え場所としては、メインスタンド裏のコンコース、緑地帯（R16号沿いは禁止）を利用すること。
- ⑤ プログラムの記載事項の訂正については競技開始1時間前までに、申込責任者がTICへ届け出ること。
- ⑥ 競技中に発生した事故などについては応急処置を主催者で行うが、以降の責任は負わない。また、体調が悪くなった選手は医務員の指示に従うこと。
- ⑦ レースを棄権する競技者は棄権届をTICで受け取り、必要事項を記入の上競技1時間前までにTICへ提出すること。